

JARL

香川クラブ報

№202 昭和57年10月15日



社団法人 日本アマチュア無線連盟香川クラブ

フィールドミーティングの御案内

秋もふかまり行楽のシーズンとなりましたが各局ともF Bに御活躍のことと思います。

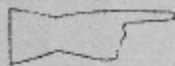
さて久しぶりに車をつらねてのフィールドミーティングを次のとおり行いますので多数の参加をお願いします。

- ◎ 日 時 1982年11月14日(日) 午前9時30分
- ◎ 行 先 伊予三島市 「金砂湖」
- ◎ 集合場所 綾南町畑田 労住協畑田団地前

シヨツピングセンター “せと” 駐車場

ここを9時30分に出発し、琴平・豊浜を通り、片道約2時間半の行程です。

各自弁当を持って参加してください。



(秋)

(秋)

(秋)

(秋)

(秋)

(秋)

(係)

皆様おはようございます。本日はJ A R L香川クラブの行事に御参加下さいまして誠に有難うございます。山の木の葉はしだいに色づきはじめ稲穂は秋風にそよぎ林を行けば果の葉はパラパラとこぼれ落ちてまいます。街を行く人の装いも、もうすっかり秋の装いとなりました。天高く馬肥ゆる秋の諺どおり秋晴れの行楽シーズンがやって参りました。お車の窓から四方の景色を御覧いただけますように毎日秋の深まりゆくのを身に感じ、菊の香り、木の葉の紅葉、柿の実りなどもいっそう秋景色を彩っているようでございます。

法 皇 山 脈

左手には高い山がつづいておりますが、あの山なみは四国山脈から分れましたもので法皇山脈と申します。後白河法皇とかいうあの法皇という字を書きますがちょっと変った名前がついております。能騰山、赤星山、豊愛山等、

海拔1,300から1,400米位の山がつづいております。このあたり、よくどらんになりますと民家の屋根に大きな石をおいてあります。風で屋根瓦が吹きとばされないようにしているものです。

あの法皇山脈を越えて吹きおろす強い風はやまし風と呼ばれ、この地方独特の現象で珍しいものです。また、あの山を越えた向う側一帯は平家の遺跡が数多くございます。

佐々連鉱山

法皇山脈の峰から海岸へ向って索道がのびていますがお判りでしょうか。金砂湖の向う四国山脈に連うという、やはり住友経営の鉱山でございます。主に銅、硫化鉱を産しておりましたが、原鉱石はあのように索道でもって湖の上を渡り高い山を越え、海岸の選鉱場へ送られておりました。原鉱石を運んだ帰りは食料品、日用品雑貨等を運んで帰りますから交通不便な山奥の割に新鮮な野菜や魚が食べられたそうです。

ところが空とお鳥やトビにとってはもっての幸い、折角の魚をまんまとしてやられたことも2-3度あったそうです。いくら人間様がかしこいといってもやはりどこか抜けたところがあるようです。

法皇トンネル

金砂湖一帯は森林や地下資源に恵まれております。然し、こちら側三島から行きますには川之江から高い峠をこえて行きますので、時間もかかり大変不便でした。ところがあの山にトンネルが完成し大変近くなりました。法皇トンネルと申しまして、長さ1,663米あり、完成当時は四国では一番長いトンネルでした。森林組合の手によって完成したもので有料トンネルとなっております（今は知りません）。ことトンネルの完成により時間も3分の1に短縮され、奥地の産業資源開発や観光・文化面で大きな役割を界しております。

金砂湖

法皇山脈の山なみもこのあたりは800米位の峰が続いております。丁度

この山向うに今日皆様方を御案内いたします銅山川をせきとめて造りました湖、銅山川ダム金砂湖があります。三島を中心とするこの宇摩平野は海岸近く山が迫り川の流れは殆んどありません。そのため農民は昔から水キキンでなやまされカンバツと凶作は毎年おそっておりました。山一つ越えた向うには水量豊かな銅山川があるというのに、何とかしてこの水をこちら側にひいたらと思いつきましたのがダムの建設です。そしてトンネルでもってこちら側に水をひき、農業用水、工業用水、飲料水、さらにその間発電にも利用するというものです。現在、愛媛県には四つの人造の湖がありますが、金砂湖は今から20年あまり前にできた県下で最初のダムでございます。

皆様 金砂湖現着でございます。蒼い水、蒼い空、そして山の紅葉、深みゆく秋を十分ご満喫くださいますように……。御出発は××時です。

高松市趣味文化祭に参加

11月6日～7日 高松市市民文化センターにおいて、高松市趣味協会の文化祭が開催されることになりました(別添プログラム参照)。わがJARL香川クラブもこれに参加し、公開運用を行うことにしております。

なお当日は案内書のとおり各種の催物が行われます。

日 時 11月6日(土) 趣味文化展

11月7日(日) 趣味文化フェスティバル

公開運用は11月7日(日) 10.00～15.30となっております。

準 備 11月7日(日) 9.00～10.00

片づけ 11月7日(日) 15.30～17.00

準備や片づけにはたくさんの人手が必要です。

多勢の方の御協力をお願いします。



パーソナル無線について

郵政省電波監理局は100万ともいわれるCBバンド人口を考えてか、27MHz帯に代る新しい周波数の無線（市民無線は27MHz帯、0.5W、海上は0.1W）で、自動車に開設して簡易に利用できる“パーソナル無線”（仮称）の計画を打ち出し、既に4月22日の電波記者会見で徳田電波監理局無線通信部長が発表している。この構想はかなり関心を集めるものと想像されるので、その狙いなどについて。

①簡易な無線通信で、個人や企業を問わず、とくに急増している車載用は十年後に500万局と推測されており、これに応えること

②併せて不法無線局の取締りを効果的に推進すること にあるといわれる。

当局はこの“パーソナル無線”の操作にあたっては無線従事者の資格を要しない、簡易無線局とする方針であること。しかし周波数の有効利用である“パーソナル無線”にふさわしい技術条件とするため、①基本設計の開発調査 ②選択呼出方式の開発調査 ③ATIS（自動識別符号発射装置）の開発調査 ④試作・実験を日本電子機械工業会に依頼している。基本設計において、英国の場合800MHz帯、米国も800MHz帯で検討していることから、わが国でも800～900MHz帯を使うことを建前としている。チャンネル数は50チャンネルを目途とし、将来はこれを越す場合も考えに入れている。またチャンネル間隔は12.5kHzか25kHzあたり、出力は3W程度、到達距離5キロの単信方式（FM変調）にするというのが最近までの構想のようである。……使用無線機が自動的に識別できるようなATISは2000万局を識別可能のものとし、このため符号（コード・送信速度は0.3秒以内）を記入するカートリッジ方式も開発する。これだと符号が組み込んでない場合は、無線機のスイッチを押して交信しようとしてもATISが作動しないから通信できないという。

選択呼出方式は、特定の相手を対象とした個別、グループを対象とした群別、対象を特定しない無差別の3方式が考えられている。このためATISと両立性のある方式となるだろう。いずれにしても試作無線機器ができた結果によって、年内に方針が固まるのではないかとみられる。

問題はATISに、どこが機関がコードを記入するか、その機関の決定は、利用者の急増対策、違反者が出ないように管理できるのかなどであろう。ともかくヨーロッパや米国でも“パーソナル無線”というものが考えられているものの、ATIS方式を採用していくという構想はわが国だけ。それだけに海外の関心も高いそうである。（JARL情報第50号 1982年7月20日から）

社団法人 日本アマチュア無線連盟

香川クラブ報

発行責任者 JA5AHM 天野 英弘

編集者 JA5IQP 合田口正春

JA5PZL 高畑 康男

連絡事務所 高松市中新町

(〒760) 天野 英弘 方

(TEL) 高松

郵便振替口座 徳島 8758 JARL香川クラブ